

1. データ：困っている人

- (1) **年齢・性別：**85歳女性
- (2) **家族構成：**約5年前、夫は亡くなりました、息子の家族は今アメリカで定居している、大体1年一回ぐらい帰る。今は一人暮らし
- (3) **体の具合：**高血圧、糖尿病、肩、腰が痛みを感じられる、雨の日には足が痛くなる、夜間に起きて小便をすることが多い
- (4) **生活状況：**今年は5年目の一人暮らしけど、ペットは飼わない、趣味は散歩、マージャンしかない、普段人との交流機会は少ない。病気を治療するために、毎日薬飲んでる。毎日朝約5時半に起きる、そして、一時間朝散歩する。朝、昼、晩ご飯は自分で手作り料理である。毎日12時ぐらいに昼寝をする、午後には大体近所の年近い友達マージャン及びチャットをする。洗濯は三日一回（洗濯機がある）。ちょっと潔癖があるから、ほぼ毎日掃除する。夜にはテレビ見ると新聞読む。9時、9時半ぐらいに寝る。
- (5) **自身の思い：**ゆったりとした心を保つ、一人暮らし最初の一年目はちょっとしんどいだ、夫の逝去はビッグショックなのだけど、心理準備があるから。今は大体大丈夫な状態になる。そして、本当に孤独感と何もできずにこういう感じが強い。毎日友達と一緒にマージャンとか遊べるけど、やっぱり息子の家族たちが思っている、連絡が少ない（時差、通話料金が安い、携帯は使えないいろいろな原因がある）から、安心感はほとんどない。最近も自分で記憶が悪くなる感じられた。自分が認知症のことが怖くなる、携帯とかインターネットも使えない、認知症に関する情報は年近い友達からもらった、間違いどころが多いかもしれない。いろいろな不便があるけど、老人ホームへ行きたくない。地域の衛生院、衛生所も行きたくない、体検査もしたくない（何があれど、普通の生活を過ごせなくなる恐怖感がある）夜間に起きる場合が多いから、何も見えないから、ちょっと心配している。
- (6) **生活ニーズ：**毎日の食事は大问题になる、食量は少ないから、毎日作った料理は食べられない、外の食の衛生性を心配している、デリバリーは不信任感がある。でも、もし居委会が食事サービスがあれば、ありがたいと思う。そして、掃除とかはしんどいから、もっとお手伝う人が来るのは欲しい（頻度とか）。人との交流機会が増加したい。そして、健康に良い知識を知りたい、認知症の検定と予防の方法も知りたい。そして、難しいと思うけど、単純なインターネット使い方を勉強したい、そして息子の家庭との連絡はやりやすくなれる、息子の家族の連絡の増加は今一番必要なことだ。

2. 思いとサポートニーズを支えるサービス

今中国の街道の老人の事務に関する機構は「居委会」である、蘇州市の各街道の「居委会」は提供しているサービスはこちら：

(a) 70歳以上の一人暮らしの老人やお子様が本市で住んでいない老夫婦は週一回掃除サービスを提供する。そして、ヘアカットサービスは3カ月一回提供する、全部デリバリーの形式。

(b) 蘇州市在住の70歳以上の老人はバス、地下鉄を乗ると観光地は無料になる。（バスと地下鉄の無料時間は朝8-10時と午後4-6時を除く）

(c) 80歳以上の一人暮らしの老人は有料配食サービスがある。（種類が多くないけど、

時々昼ごはんしかない)

(d) 区に単位として、老人大学が設置されている(退職後の老人のために設置した勉強と趣味場所。いっぱい学科がある、例えば:美術、書道、パソコン、太極拳とか。有料サービスである。)

そして、街道の区内には衛生院設置している。サービスも提供している:

(a) 65 歳以上の老人には年一回の簡単な体診査

(b) 70 歳以上の老人の診療費、薬費半分割引

(c) 半年一回の社区レベルの問診イベント

以上のサービスは良いけど、足りないと思う。今回の対象:85 歳のおばあちゃんと同じ問題がある老人が社区でいっぱいいる。サービスの改進と増加が必要と思う。

最初には居委会今の老人事務の部門と社区の衛生院とコラボして、独立して、専門の老人事務運営組織を成立する。(各社区内一軒設置する)そして、五つ部門を分けて、運営する。

- (1) 生活部門。この部門は生活関するデリバリーサービスが主な職能である。配食サービスは栄養機構とコラボする、各老人さんの体状況を考えて、相応しい週レシピを作る(有料サービス)そして、掃除サービスは家政会社とコラボして、選択された家政婦さんを週一回から三回まで家へサービスを行う、そしてサービス内容も選択できる。(掃除しかは無料、他のは有料サービス)。ヘアカットサービスもある。銀行でヘルプサービス、友達とケンカする後の調停サービス、代わりにスーパーへ買い物サービスとか使える可能サービスがいっぱいある。組織の場所でコモンスペースを 1 部屋設置して、ここで、老人たちは食事、座談会、室内で開催できる大衆を行われる。つまり、生活に関するお問い合わせは全部相談できる。
- (2) 衛生部門。この部門は元々の医療職能に基づいて、デリバリー医療サービスを加入する。(月一回程度無料)そして、心理問題が解決できる心理先生もいる。認知症の事を詳しく知りたい知識も先生との相談からもらえる。認知症に関する見積もりもできる。
- (3) 文体部門。この部門はイベントの開催と行うことを運営する部門である。昔の問診イベントは毎月に行う、毎月には老人に出やすい病気をテーマにして行う。この部門も老人たちの自治組織とボランティア組織とコラボすることも可能、そして、毎月若いボランティアと地域の老人たちと一緒に様々な活動を行う。例えば、チャット大会、オペラ大衆、麻雀大衆とか。地域の人との交流を増加するために行う。そして、社区内の老人趣味会を設立して、老人大学で人気トップ3の学科を開設する。
- (4) 日常事務部門。この部門は市役所と区役所で取り扱えられる手続きとかの優先サービスを提供する部門。

この組織は老人しかに関する組織だから、意味は重大である。そして名も「老人会」から「夕日会」になる方がいいと思う。

3. 住環境や施設

前章の「夕日会」の成立は必要なことと思う同時に、老人の自分の家の改造も大切なことだ。今既存の手段、手すりの設置、浴室の滑り止め改造、警報ベルの設置とかはもちろんだけど、今回の老人さんは家族との接続性が弱いから、家の改造は智能化の方向に進む必要があると思う。

(1) 先端テクニック結晶 Lifestick™の導入

老人さんはスマートフォンが使えないから、自動的な先端テクニックものがないと思う。<これは完全に自分の発想である。>このライフスティックは老人さんの息子さんのスマートフォンと接続する、そして、スマートフォンで専用アプリがある。このライフスティ

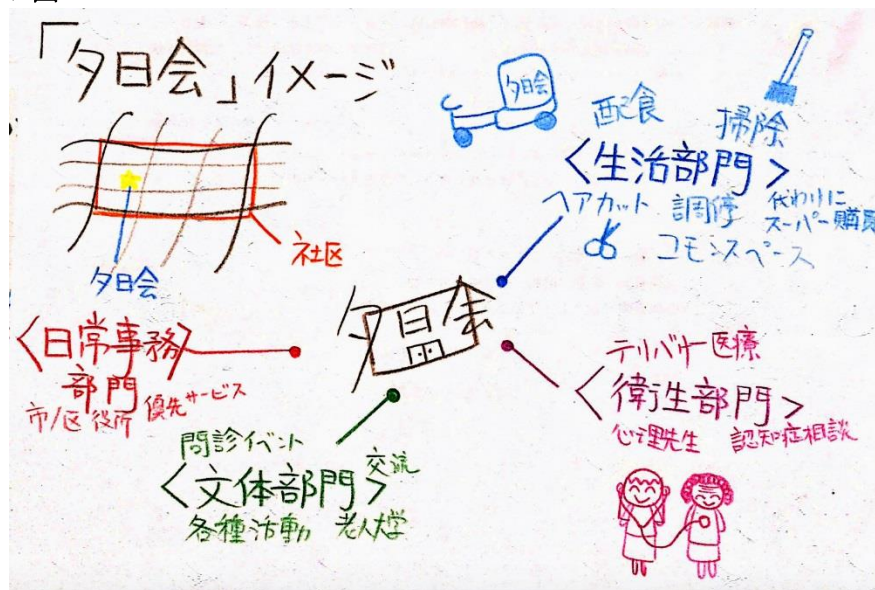
ックは想像以上の機能がある、智能スクリーンは老人見やすいデカイ文字を展示できる。例えば、赤外線機能は人の熱能状況を検査して、リアルタイム的な体温が測定できる。そして、寝る時に、ベッドと近い机の上を置いと、睡眠データを得る。ライフスティックもいっぱいセット用品がある、例えば、首環（ネックレス仕様）はネックレスの形で、肩、首の血液循環の状況を検視できる。血圧帯（電池あり、腕で設置すると、自動的に血圧データを得られる）とか血糖マシンのデータシェア機能もある。いろいろな体データはライフスティックから息子さんのスマートフォンへ転送できる。息子さんは自分のお母さんの体状況を詳しく了解できる。そして、夜起きる時に、ライフスティックも感応できる、そして、セット用品の中のライトを自動的に点灯する。この以外もデカイ種類の機能とセット用品がある。ライフスティックも必ず学区の「夕日会」と繋がって、赤外線感応に通じて、もし緊急事態（体の具合、不審者とかの出会いとか）があれば、すぐわかる状態になる。

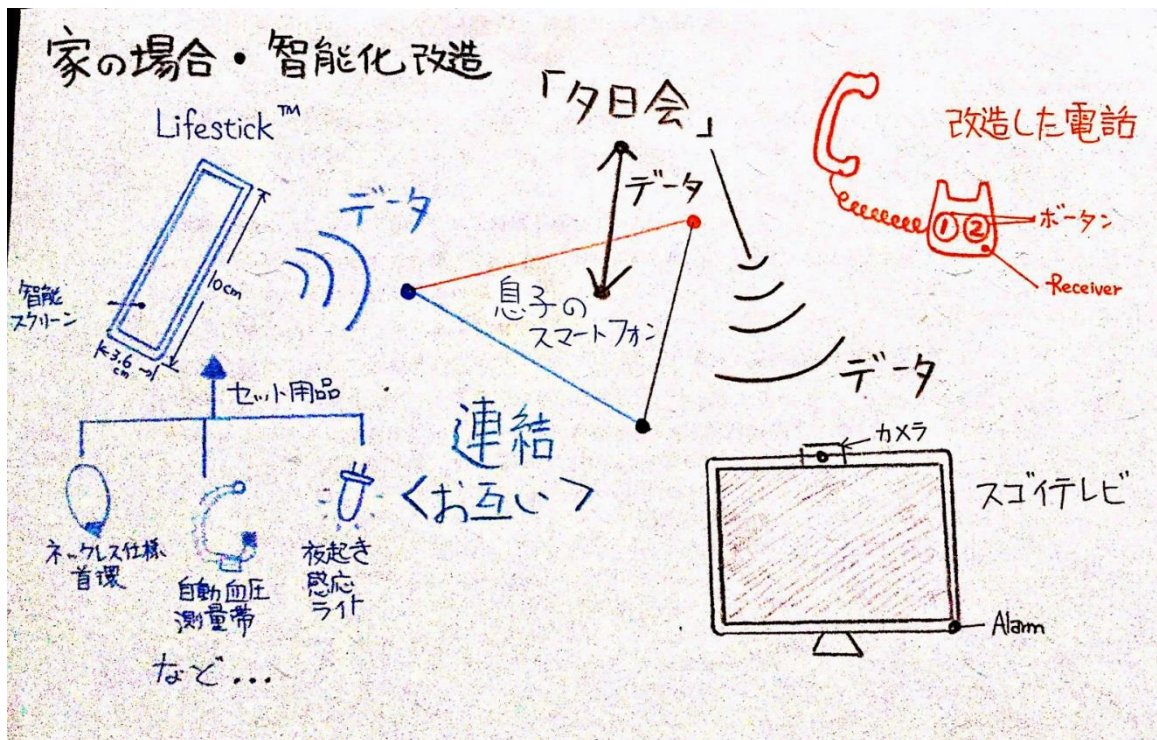
（2）改造した電話とスゴイテレビ

老人さんはスマートフォン使う方全然わからないから、電話を改造する。改造した電話は息子さんの電話と老人さんの家のカメラつきスゴイテレビとライフスティックとつながる。息子さんの電話が来る時に、受話器を上げて、テレビでFACETIMEのような通話形式ができる。そして、この電話はスペシャル「Receiver」を設置して、電話をかけたい時に、「Receiver」の近くで電話番号を言うなら、自動的に電話ができる。そして、息子さんも自分のスマートフォンからお母さんの知り合いと重要な人の電話番号を入力して、お母さんは直接「XXさんに電話する」を言うならもできる。この電話のボタンは二つしかない、1と2である、1を押して、息子さんへ電話かかる。2を押して、「夕日会」へである。息子さんもスマートフォンからスゴイテレビで健康とか認知症とか記憶力キープとかいろいろな健康番組を選択して、老人さんはテレビで観える。そして、学区の老人大学で選択した趣味ある学科もテレビで関する番組とか情報とか見える、毎日更新できる。

この以上の様々なアイディアを提出するけど、実現するために、いっぱいことを頑張らないといけないから、学区内の老人のための福祉施設転用と新たな施設（組織）「夕日会」の設立と老人自分の家の智能化改造は主流になれるとおもう。

4. イメージ図





参考 HP

・ 姑蘇老年网

<http://www.sz60.com.cn/>

・ 蘇州万寿宮 新聞